



# 学校だより

令和 2年 6月 30日  
練馬区立田柄第二小学校  
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail [info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp](mailto:info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp)

教育目標: 元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.511

## 「とべないホタル」

校長 谷田 弘子

学校が再開して一ヶ月が経ちました。分散授業、午前授業、普通授業と段階を踏んで、子供たちも学校生活に慣れつつあります。例年と異なり、7月末まで授業が進められます。今年も暑い夏になりそうです。新型コロナウイルス感染予防と熱中症防止に努めながら、教育活動を進めていきます。

今年度は、さまざまな行事が縮小や中止となり、児童にとっては大変厳しい1年となります。少しでも楽しい行事を作っていきたいと思っていますが、計画しても実行できないかも知れません。3密を避けて行うイベントは大変難しいですが、知恵を絞りながら進めていく予定です。例年行われていた「ホタル観賞会」は今年度は中止となりました。ホタルの幻想的な光は、多くの方々の心を和ませてくれます。ぜひ来年度は、実施できることを願っています。

さて、みなさんの中には、「とべないホタル」の話を読んだことがある方が多いと思います。このお話は、1967年今から50年以上前のこと、富山県高岡市立伏木小学校の小沢昭巳先生が、「学級のいじめをなくそう」と思い、学級新聞にホタルの童話を書きました。それから20年の時を経て、小沢先生は校長先生として伏木小学校に戻りました。久しぶりの伏木小学校でしたが、いじめの問題があり、先生や親の間で大きな課題となっていました。対策に困っていたところ、ある母親が、小沢先生が担任をしていたころに校内放送でやった「ホタルの話」と声をあげたのです。この母親は同校の卒業生でもありました。その勧めもあり、子供たちにこの話を聞かせると、様子が一変したのです。帰ってきた子供たちは親にこの物語のことを話しました。親たちは、「もっとたくさんの子供たちに」と小冊子をつくったのです。この動きはマスコミに注目され、

1988年、『とべないホタル』が出版されました。この子供や親の心を動かした『とべないホタル』とはどんな話だったのでしょか。

サナギからたくさんホタルの子供たちが羽化しました。その中に生まれつき羽がちぎれてしまったために、空を飛べなくなってしまったホタルがいたのです。ホタルの子供たちは、いろいろと声をかけて、飛べるようにと励ましましたが、どうしても飛べません。そのホタルは、いつしか一人ぼっちになってしまいました。仲間のホタルたちは、飛べないホタルにどう声をかけてあげたらいいのかわからなくなってしまいます。そこへ、ホタルがりをしていた人間の姉弟がやってきました。逃げ遅れたとべないホタルに男の子が気付きました。そして、ホタルをとろうとしたとき、別のホタルが男の子の手にとまったのです。そして、このホタルは人間の子供に捕まってしまう。とべないホタルを救うために、一匹のホタルが身代わりになってくれたのです。とべないホタルは大きな涙をこぼしました。実は、人間の子供たちは、足が悪くて外に出られない妹にホタルを見せたくてホタルをとったのでした。ホタルはこの子の部屋に放されました。すぐに逃げられるのに、このホタルは、部屋の中を一生懸命飛び、おしりを光らせたのです。しばらくして、捕らえられたあの勇ましいホタルが帰ってくるという知らせが届きました。とべないホタルは、うれしいやら悲しいやら分からなくなって、顔がくしゃくしゃになっていました。

小沢先生は、何が言いたかったのでしょうか。小沢先生は、次のような言葉を残しています。「私自身が右目を失明しており、とべないホテルだったんですよ。あなたのクラスには『とべないホタル』は、いませんか。」

## 7月生活目標「友達をたくさんつくろう」

小学校の6年間は、心も体も大きく成長する時期です。たくさんの体験をしたり、いろいろなことにチャレンジしたりすることが大切です。その中で、決して一人ではできないことや、友達と力を合わせることで達成できることが数多くあります。そういった人と人との関わり合いの中でこそ、心が大きく成長することができるはずですよ。登校が再開されて1ヶ月、今まで仲よかった友達を引き続き大切にするのはもちろんですが、新しい友達をたくさんつくってほしいと願っています。そのためには、自分から声をかけることが大切です。もし、声をかけるのが難しければ、あいさつから始めるのもいいかもしれません。少しの勇気をふりしぼり、自分から声をかけられるよう、ご家庭でも励ましてあげてください。